



分子標的型抗リウマチ薬 ～JAK阻害薬～



関節リウマチ患者様に

JAK阻害薬

生物学的製剤と同等の効果をもつ
新たなリウマチの治療薬(内服薬)です。

JAK阻害薬とは

＋役割

関節リウマチ患者様の関節では、*炎症性サイトカインが増えており、関節リウマチの原因とされています。炎症性サイトカインが免疫細胞の表面にある受容体という部分に結合すると、さらに炎症性サイトカインが過剰に作られ、関節のこわばり、腫れや痛みの原因になります。JAK阻害薬は免疫細胞表面にある受容体に作用し、炎症性サイトカインの産生を抑制することで関節のこわばり、腫れや痛みを改善させる薬です。

*炎症性サイトカインとは？

サイトカインには、体内で細胞どうしが連絡を取り合う信号の役目があり、そのうち炎症の原因になるものを炎症性サイトカインといいます。TNF- α やIL-6などが関節リウマチでは有名です。

JAK阻害薬の種類

全て内服薬です。

- ゼルヤンツ
1回5mg 1日2回(朝・夕)
- オルミエント
1回2mg/4mg 1日1回(朝)
- スマイラフ
1回100mg/150mg 1日1回(朝)
- リンヴォック
1回7.5mg/15mg 1日1回(朝)
- ジセレカ
1回100mg/200mg 1日1回(朝)



＋JAK阻害薬が治療薬として選択される場合

関節リウマチの治療には、多くの場合、最初にメトトレキサート製剤が使われます。治療は「寛解」(病気の勢いが落ち着いて、痛みや腫れの少ない状態)を目指して行われます。しかし、元々肺に病気をお持ちである、または高齢であることが理由でメトトレキサートが使用

できない方、関節の変形が強く生物学的製剤の自己注射が困難な方、生物学的製剤を使用しても関節リウマチが寛解に至らない方を中心にJAK阻害薬の使用を積極的に考えます。

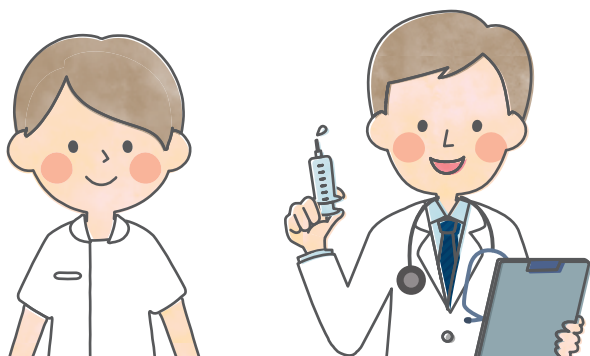


JAK阻害薬の副作用とその対策

＋ JAK阻害薬の副作用

副作用の大部分は感染症です。

JAK阻害薬の内服は、免疫の働きが低下し、感染症（細菌性肺炎、ニューモシスチス肺炎など）にかかりやすく、かつ重症化する可能性があります。そして感染症の中でも、特に日本人は帯状疱疹が発症する頻度が高い（約3-5%）ことが知られています。また結核やB型肝炎、C型肝炎の既往がある方は、JAK阻害薬を内服することで再発する可能性があります。採血項目では、リンパ球などの血球成分が低下することや、肝機能障害・腎機能障害が出る場合があります。また稀ですが、血栓症や悪性腫瘍がみられた患者様の報告があります。



＼ ご相談ください ＼

男性医師だから相談しにくい…。

診察中ゆっくり話が出来ない…。

説明をよく理解できなかった

このようなことなどがありましたら、いつでもスタッフに相談してください。
医師と連携をとりながら不安や疑問にお応えいたします。

＋ 副作用の予防

- 副作用対策として、治療前にCT検査や採血で悪性腫瘍や結核、肝炎ウイルスの有無に関するスクリーニングを行います。
- 感染症予防のために肺炎球菌ワクチンの接種を行います。
- 投薬中は定期的な採血で血球成分や肝・腎機能などのチェックを受診毎に行います。
- 帯状疱疹の予防として50歳以上の患者様に対しては帯状疱疹の不活化ワクチン（シングリックス）投与を推奨しております。

また副作用を重症化させないために最も重要なことは、体調の変化に出来るだけ早く気が付く事です。体調の変化に気づいた際には、JAK阻害薬の内服を中止し、すぐに当院に連絡または受診をしてください。

生ワクチン（BCG、麻疹、風疹、帯状疱疹）は感染する危険があるため、受けることが出来ません。ワクチン接種の希望がありましたら、主治医、当院スタッフにご相談ください。

大切なことは
一人で悩まないこと、
自分で判断
しないことです。

病気とうまくつきあいながら
普段通りの生活を送れるよう
スタッフ一同願っています。



医療法人 清仁会
北海道内科リウマチ科病院

☎(011) 611-1371 スタッフ一同